

1 カンゾウ

2 生薬の性状の項を次のように改める。

3 生薬の性状 本品はほぼ円柱形を呈し、径0.5～3 cm、長さ1
4 m以上に及ぶ。外面は暗褐色～赤褐色で縦じわがあり、しば
5 しば皮目、小芽及び鱗片葉を付ける。周皮を除いたものは外
6 面が淡黄色で繊維性である。横切面では、皮部と木部の境界
7 がほぼ明らかで、放射状の構造を現し、しばしば放射状に裂
8 け目がある。ストロンに基づくものでは髓を認めるが、根に
9 基づくものではこれを認めない。

10 本品は弱いにおいがあり、味は甘い。

11 本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、黄褐色の多細胞層
12 のコルク層とその内側に1～3細胞層のコルク皮層がある。

13 二次皮層には放射組織が師部と交互に放射状に配列し、師部
14 には厚壁で木化不十分な師部繊維群があり、その周囲に結晶
15 細胞が認められる。周皮を除いたものでは二次皮層の一部を
16 欠くものがある。木部には黄色で巨大な道管の列と3～10
17 細胞列の放射組織が交互に放射状に配列する。道管は結晶細
18 胞で囲まれた木部繊維及び木部柔細胞を伴う。ストロンに基
19 づくものでは柔細胞性の髓がある。柔細胞はでんぷん粒を含
20 み、また、しばしばシュウ酸カルシウムの単晶を含む。縦切
21 片の鏡検(5.01)では、師部繊維又は木部繊維の周囲の結晶
22 細胞は列をなす。

23

24